

## 概要

○大規模な園芸団地を形成する「園芸メガ団地事業」に取り組んだ地区で、当初想定していなかった労働力調整や慣れない作業による遅延により目標販売額を達成できない地区があることから、改善に向け支援を行った。

○新たに高収益作物の取り組みを行う地域についても、安定的な営農開始に向けて、事業開始前から経営・栽培技術の支援を行った。

## 具体的な成果

### 1. 単収・品質の高位安定化と労働生産性・経営改善

- 水稻部門では農業試験場と協力し、営農計画策定を支援するシステムを活用して作業競合の解消と作期分散を提案した。
- アスパラ部門では茎枯病発生ほ場を程度別に区分けし、被害状況に応じて栽培管理を徹底するよう指導した。**巡回指導時は地元JA・試験場も同行し、指導内容の共有を図った。**
- リンドウ部門では**定植年数別にほ場を分け、収量が多くなる定植年数が若いほ場に労働力を導入出来るよう管理作業内容を分け、労働力の配分を見直した。**

### 2. 高収益作物の技術習得支援

- ねぎ栽培経験が浅い法人に対し、栽培技術習得研修を行い、すでにねぎ栽培に取り組んでいる法人に対しては大規模栽培での単収向上のための技術研修や先進地視察を行った。

## 普及指導員の活動

令和4年

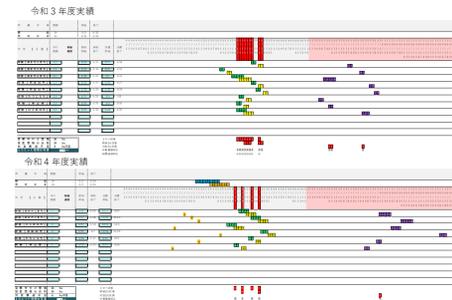
- 水稻の巡回指導・営農計画策定システムの導入により田植時期の作業分散を行った。
- アスパラの講習会を開き、病虫害防除指導、収穫作業の効率的な方法を指導した。
- リンドウの巡回指導を定期的に行い、適期防除により病虫害の発生を抑制し品質向上を図った。
- 前年度の部門別収支や労働力について聞き取り経営状況を確認した。



アスパラ栽培講習会

令和5年

- アスパラのは場を病害発生状況ごとに分割し、管理作業・収穫作業の優先度をつけて指導したことで収量が向上した。
- 経営状況のヒアリングを元に、経営状況を法人の理事全員に理解してもらい適切な経営管理に向けた機運向上につながった。



営農計画策定システム

## 普及指導員だからできたこと

- 試験場やJAと協力して巡回指導を行うことで、現地で適切な指導が出来、JAが巡回する際の指導力向上にもつながり、管内全体の技術向上につなげることが出来たこと。

別紙（詳細資料）

秋田県

## 既存メガ団地の経営改善と新たな団地形成に向けた支援

活動期間：令和4年～7年度

### 1. 取組の背景

管内では、大規模な園芸団地である「園芸メガ団地」形成に取り組んできた。取り組みから時間が経過し、労働力調整や作業遅れによる目標達成に至らない団地が見えてきた。そのような団地の営農継続のために技術や経営改善に向けて重点的な支援を行い、目標販売額達成に向けた取り組みを行った。

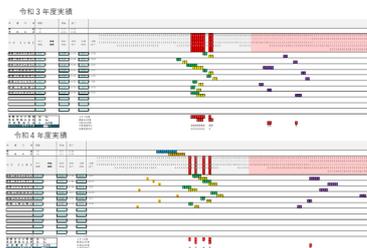
また、今後新たに高収益作物に取り組む地区に向けて、安定的な営農開始が出来るように事業以前から栽培技術習得に向けた支援に取り組んだ。

### 2. 活動内容（詳細）

#### ・単収・品質の高位安定化と労働生産性・経営改善

法人が取り組む複数の作目において、作目ごとに状況を確認し、個別に支援を行った。

水稻部門では、農業試験場と協力し、営農計画策定支援システムを使用し、作業の競合改善、作期分散が図れる作業体系を提案した。また、定期的な巡回指導を行い、防除や作業について指導を行った。



水稻営農計画策定支援システムで作成した作業体系

アスパラガス部門では、茎枯病が発生しているほ場を、発生程度別に区分けし、被害状況に応じて栽培管理の指導と労働力配置の見直しを行い、収量確保に向けた支援を行った。

リンドウ部門では定植後の年数別にはほ場を区分けし、収穫量の多い新規ほ場を中心に労働力を配分し、収量が低下している老齢のほ場について、改植の提案を行い収量確保の支援を行った。

#### ・高収益作物の技術習得支援

高収益作物としてねぎに取り組む法人に対して、栽培経験が浅い場合は栽培技術習得に向けた研修会を、取り組み実績のある法人向けには大規模栽培の先進地視察を行った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### ・単収・品質の高位安定化と労働生産性・経営改善

水稲部門ではシステム活用により、作業性の向上が図られ、その作業が定着した。また随時指導を行い、防除や水管理等の作業が効果的に行われ、前年度より単収が向上した（単収前年比 111%）。異常気象の影響により、目標は達成出来なかった（達成率 88%）。

アスパラガス部門では農業試験場と協力し、茎枯病の発生程度別にはほ場を区分けし、管理を徹底することで被害を抑制することが出来た。また、巡回指導により適期作業が行えたことで、株養成が順調に進み、令和 5 年度は目標を大きく上回る収量を確保出来た（単収目標達成率 125%）。

調整作業の人員配置見直しを行い、労働時間の削減を行った結果、令和 4 年と比較し、15%の作業効率向上が図られた。

先進的な作業効率の法人の作業者を実際に動画撮影し、その作業状況を各法人で確認することで効率化の重要性を認識した。



アスパラガス講習会

リンドウ部門では、収穫 6 年以上の老齢ほ場と収穫 2～4 年目のほ場で管理作業の内容を分け、若いほ場に労働力を配分するように指導した。高温被害と労働力不足の影響で目標達成に至らなかった（単収目標達成率 44%）。次年度以降は老齢ほ場を改植し、現状の労働力規模に合った面積にすることで、単収向上に努める。

#### ・高収益作物の技術習得支援

J Aねぎ部会や農業試験場と協力し、栽培講習会を開催し、取り組み法人の技術力向上に努めた。令和 4 年度は目標を大きく上回ったものの令和 5 年度は高温被害の影響もあり目標達成には至らなかった。

#### 4. 農家等からの評価・コメント（由利本荘市A法人）

各部門で試験場やJAと協力して、指導してもらえたことで作業者の技術向上につながった。作業改善は自分たちだけでは難しい部分だったので、指導して適切な管理を提案してもらえたことで、経営改善につながってよかった。

#### 5. 普及指導員のコメント（由利地域振興局・主査・石川裕之）

地域を支える大規模な営農団体だが、指導に入り経営の状況を確認すると様々な問題を抱えていることがわかり、地域農業の安定化のために緊急性が高い問題であると判断して早急に支援を行った。理事会で状況を説明し、理解してもらったことで、経営改善に向けて一体となって前進することが出来た。

#### 6. 現状・今後の展開等

部門ごとに指導を行ったことで、技術が向上し安定してきたものの、まだ目標を達成出来ていない部門に対しては引き続き、重点的に指導をしていく。

労働力不足を補うため、トヨタ式カイゼンによる工程管理等を導入し、効率化を目指す。